

2026年5月13日

各 位

東京都千代田区内神田二丁目12番5号

株式会社ビーマップ

代表取締役社長 杉野 文則

(東証グロース：4316)

問合せ先：取締役経営管理部長 大谷 英也

(電話 03-5297-2181)

業績予想の修正に関するお知らせ

今般、業績の動向を勘案し、2025年5月14日に発表いたしました2026年3月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

## 記

## 1. 2026年3月期連結業績予想数値の修正

2026年3月期通期連結業績予想修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,900	50	50	30	9円25銭
今回修正予想 (B)	1,721	▲97	▲100	▲115	▲32円97銭
増減額 (B - A)	▲179	▲147	▲150	▲145	—
増減率 (%)	▲9.4%	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	1,494	▲182	▲190	▲179	▲55円49銭

## 【修正の理由】

第4四半期において、各事業、特にソリューション事業を中心に売上高の上積みと費用の統制に取り組んだ結果、一定の回復は得られたものの、売上高、営業利益とも当初の見通しには届かない見通しとなりました。

売上高は、対前期比において、ソリューション、ワイヤレス・イノベーションにおいて伸長したものの、対計画では、全ての分野で未達となり、特にモビリティ・イノベーション、ワイヤレス・イノベーションでの計画未達が響き、計画に対し約9.4%の売上高減少となる見通しです。モビリティ・イノベーションにおいては、依然として、ただチケなどの収益化が遅れており、ワイヤレス・イノベーションにおいては、構築案件などの減少により売上高が減少し、宇宙防衛など新規分野も含めた大型案件獲得に取り組みましたが当該年度での本格的な受注には至りませんでした。ソリューションは、こんぷりん、自治体・事業会社向けの Edgecore などハードウェア販売が好調であり、子会社 MMS マーケティングの業績が回復したことも影響し、増収となる見通しです。

売上高が対前期比で伸びたにも関わらず、輸入機器販売案件での損益悪化、棚卸資産の滞留を踏まえた評価減の実施、一部出荷済製品で回収・交換を要することになった費用見込額の計上などにより、売上総利益が伸びず、見込んだ利益の確保ができませんでした。原価率は目標の54%に大きく及ばない61%とな

る見通しです。

販売費および一般管理費は、主に第4四半期に稼働率の上昇による労務費の減少、一部費用の凍結などにより、削減することが出来ましたが、営業利益の回復には至らない見通しです。

<分野別売上高の見通し>

	前期実績	当初計画	直近の見通し
モビリティ・イノベーション	99 百万円	150 百万円	76 百万円
ワイヤレス・イノベーション	418 百万円	650 百万円	583 百万円
ソリューション	975 百万円	1,100 百万円	1,062 百万円
合計	1,494 百万円	1,900 百万円	1,721 百万円

※ 当社は当期よりシステム・ソリューション事業の単一セグメントを適用しており、従来の分野別のセグメント会計を適用していないので、「直近の見通し」は概算であります。

2. 今後の見通し

2026年3月期決算短信につきましては、2026年5月14日の発表を予定しております。

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいております。今後、変更すべき事象が生じた場合は速やかに発表させていただきます。

以 上